

令和 4 年 6 月 9 日現在

機関番号：32408

研究種目：基盤研究(C)（特設分野研究）

研究期間：2018～2021

課題番号：18KT0096

研究課題名（和文）プライバシー意識の国際比較 ネットにおける個人情報の開示に影響を与える要因

研究課題名（英文）A Comparative Study on Privacy Concerns

研究代表者

石井 健一（Ishii, Kenichi）

文教大学・情報学部・教授

研究者番号：90193250

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本人のインターネットへの信頼度が国際的に低いのではないかとという問題意識に基づき、その要因と低い信頼度がもたらすインターネット行動への影響を分析することを目的とした。日本と台湾でアンケート調査を実施した結果、当初の想定とは異なり日本よりも台湾においてインターネットへの信頼度が低いという結果になった。また、プライバシー意識もほとんどの項目が台湾において強かった。また、プライバシー意識とインターネットへの信頼度に関しては有意な相関がみられなかった。ただし、関係流動性が国の違いによるインターネットへの信頼度への影響を媒介しているという仮説は、媒介分析の結果支持された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来から日本のインターネットは、ブロードバンド環境などインフラに関しては先進的であるにもかかわらず、実際の利用行動は他国に比べて低い水準にとどまっていることが指摘されていた。本研究ではこうした利用行動のギャップを説明する可能性としてインターネットの信頼度を取り上げた。しかし、先行研究とは異なり本研究では、日本人のインターネットへの信頼度が低いという結果にならなかった。ただし、関係流動性がインターネットの信頼度を規定しているという結果は得られた。この結果は、インターネットに関する施策を考えるとき、単純に他国と同じ施策を行うのではなく、日本人利用者の文化的背景を考慮に入れることを示唆している。

研究成果の概要（英文）：Based on an awareness of the problem that trust in the Internet among Japanese may be low internationally, the purpose of this study was to examine factors contributing to this low level of trust and the impact of this low level of trust on Internet behavior. The results of the questionnaire survey conducted in Japan and Taiwan showed that, contrary to initial expectations, trust in the Internet is lower in Taiwan than in Japan. In addition, privacy awareness was stronger in Taiwan for most of the items. There was no significant correlation between privacy awareness and the level of trust in the Internet. However, the results of the mediation analysis supported the hypothesis that relational mobility mediates the effects of country differences on Internet trust.

研究分野：メディアの社会心理学

キーワード：インターネットの信頼度 プライバシー意識 関係流動性 台湾 SNS 個人情報の開示

## 1. 研究開始当初の背景

筆者らは、World Internet Project (WIP)の日本チームとして2000年からインターネット利用行動の国際比較研究に携わってきたが、その研究結果の中で、日本人はインターネットへの信頼度が著しく低いことを見出した(Ishii 2017; 石井 2016; 三上、橋元、吉井、遠藤、石井 2004)。また、日本人は、個人情報の開示度が低い(Ishii 2017; 石井 2014)が、これはインターネットへの信頼度が低いことと密接な関係があると考えた。

## 2. 研究の目的

(1) 日本人のインターネットへの低い信頼度は、プライバシー意識をはじめとして、他の様々なインターネット利用行動に影響を与えているのではないかと予想される。そこで、本研究は日本人のインターネットへの信頼度が低いのはなぜか、ということを一義の研究目的とした。

研究目的1 なぜ、日本人のインターネットへの信頼度は低いのか?

本研究では、インターネットへの信頼度に見られる文化差が、社会的ネットワークの特性で説明できるのではないかと予想した。この研究目的に対応する仮説として、仮説1「日本人と台湾人のインターネットへの信頼度の違いは、関係流動性によって媒介されている」を検証することにした。関係流動性とは、特定の社会において個人が関係をもつ相手を個人の好みによって選択できる程度である(Yuki & Schug 2012)。関係流動性による研究によると日本は台湾よりも関係流動性が低いことが示されている(日本: - 0.414, 台湾: - 0.294, Thomson ほか 2021)。関係流動性は、様々なタイプの人間行動の文化差を説明する変数として使われている。たとえば、対人関係における自己開示(Schug, Yuki, & Maddux 2010)やSNSにおける自己開示(Thomson & Ito 2012)との関係が報告されている。いずれも、関係流動性が高いほど他人に情報を公開する程度が高いという結果であった。

(2) また、インターネットへの低い信頼度が他のインターネット上の行動にどのような影響をもたらしているのかも明らかにしようとした。プライバシー意識や個人情報のネット上の開示については直接的な影響があると考えられるが、これ以外にもネットショッピングや電子政府の利用など色々なインターネット利用行動に影響を及ぼしていると考えられる。

研究目的2 インターネットへの信頼度は、インターネット利用行動にどのような影響を及ぼしているのか?

研究目的2に関しては、まず、「インターネットへの信頼度は、ネット上でのプライバシー意識に影響を与えている」という基本的な仮説を検証した上で、インターネットへの信頼度がネットショッピングなどインターネットの利用行動にどのような影響を与えているかを見ようとした。また、本研究ではSNS(Social Network Service)の利用に焦点をあてた分析も行う。また、日本人と台湾人のSNS利用行動を比較することにより、「日本と台湾のSNSにおけるプライバシー関連行動の差は、SNS上の対人ネットワークの特性によって媒介される」という仮説を検証する。

(3) これらの研究目的を達成するため、日本および台湾において質問紙調査を行った。台湾人は日本人とは対照的にプライバシー意識に関して開放的であり、インターネットへの信頼度も高いことが過去の申請者のグループの研究結果(Ishii 2017; Ishii & Wu 2006)から示されていたことが台湾を比較対象に選んだ理由である。

### 3. 研究の方法

(1) まず、日本語で独自の設問を作成し、日本社会における SNS 利用とプライバシー意識の関係、プライバシー意識・インターネットへの信頼度、インターネット上のネットワークの特性、回答者の属性、その他のインターネット行動・態度に関する項目を調査する。なお、文化差を明らかにするため、日本語の質問文を中国語に翻訳した上で台湾でも同様の規模のオンライン調査を実施することを目指した。

(2) 日本での質問紙調査 日本ではクロス・マーケティング社に委託して 2020 年 2 月にオンラインで質問紙調査を実施した。対象者は 18～69 歳の男女、対象者数は 1000 人とし、日本の人口分布を考慮して以下のように男女別に割り当てることにした。日本での回答者は、男性 50.3 %、女性 49.7 %、平均年齢 44.1 歳(標準偏差 13.8)となった。

(3) 台湾での質問紙調査 台湾の InsightXplorer 社に委託して 2020 年 1 月にオンラインで質問紙調査を実施した。対象者は 18～64 歳の男女で少なくとも一種類以上の SNS(Facebook, LINE など)を使っている者とした。対象者数は 900 人とした。その結果、男性 46.8 %、女性 53.2 %、平均年齢 38.7 歳(標準偏差 11.7)となった。また、2020 年 10 月に同一の対象に対してパネル調査を行い、いくつかの項目について補充質問をした(N=500)。ただし、本報告書ではこの部分の結果については省略する。

### 4. 研究成果

(1) まず、プライバシー関係の質問の結果は、表 1 のようになった。意外なことに台湾においてほとんどの項目が値が高い(プライバシー意識が強い)という結果であった。ただし、実際は質問文は翻訳されたものであるため、質問に使われた言語のニュアンスなどによる影響がある可能性もある。

表 1 プライバシー関係の質問の記述統計

国 件数(N)	日本 1000	台湾 900	F 値
	平均値	平均値	F 値
インターネット信頼度	5.01	4.65	12.18 ***
テレビ信頼度	5.73	5.18	22.74 ***
新聞信頼度	5.55	5.31	3.55
1 プライバシーはもはやないのが現実だ	3.13	3.64	125.53 ***
2 私のプライバシーを政府がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	2.83	3.70	357.50 ***
3 私のプライバシーを企業がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	3.02	3.83	335.95 ***
4 私のプライバシーを他人がネットを利用して侵害しているのではと不安だ	3.04	3.87	346.37 ***
5 わたしは、ネット上で自分のプライバシーを守ることに積極的である	3.09	3.88	338.66 ***
6 ネット上のプライバシーに関する不安が大きさに騒がれ過ぎている	2.81	2.96	10.75 **
7 わたしは何ら隠すものはない	2.67	3.10	80.36 ***
8 インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる	3.04	3.83	384.94 ***
9 携帯電話やスマートフォンを使っているときは、たとえ友人でも画面を見られたくない	3.32	3.59	33.09 ***
10 友人との会話を知らない人に聞かれたくない	3.40	3.79	78.53 ***

い			
11 くだん持ち歩いているカバンの中身は、たとえ友人でも見られたくない	3.18	3.55	58.33 ***
12 自分や家族の収入の額は、他人には知られたくない	3.55	3.89	52.95 ***

(2) 表 1 の 12 項目のプライバシー意識の項目とインターネット信頼度との相関係数を求めたが、ほとんどの項目で有意な結果が得られなかった。したがって、日本と台湾のいずれにおいても仮説 2 は支持されなかった。また、日本と台湾のどちらにおいても、最もよく使われる SNS は LINE であった。そこで LINE を主 SNS として利用している回答者に限定して、LINE での個人情報の開示(全利用者に対する開示の比率)について日台間で比較してみた。その結果、台湾の方が情報の開示度が圧倒的に高い。すべての項目において台湾の方が開示度が高いという傾向がみられた。

(3) 回帰分析によるインターネットの信頼性の要因比較 ステップワイズ回帰分析を用いて、インターネットへの信頼度を従属変数として日本と台湾のデータを用いて比較を行った(sacrifice と推定された回答を除く)。用いた変数は、性別、年齢、学歴のデモグラフィック変数に加えて、プライバシー関係の変数、関係流動性と SNS の利用時間である。ただし、ステップワイズにおいては、両国ともテレビの信頼度が最も関連が強い変数として選択され、プライバシー意識や関係流動性は、説明変数として選択されなかった。

(4) また、インターネット信頼度と関係流動性の間には、日本・台湾のどちらにおいても有意な関係がみられた。表 2 は、回帰分析の結果である。どちらの国においても、関係流動性が高いほどインターネットへの信頼度が高いという関係がみられる。仮説 1 は支持されなかったが、日本と台湾のインターネットの信頼性の違いは関係流動性に媒介されているという仮説を Sobel Test で検証した結果、統計値は 3.66 であり、0.1%水準で統計的に有意であった。国の違いが関係流動性を媒介して影響を与えていると言える。ただし、関係流動性は日本・台湾のいずれにおいても、プライバシー意識とは相関関係がみられなかった。相関関係を検討したところ、日本で「インターネットを使う時には、自分のプライバシー情報を公開するかどうか管理できる」と有意な関係がみられる以外は、全ての項目で統計的に有意な相関は見られなかった。

インターネットへの信頼性に関する日台比較の結果をまとめると、日本の方が信頼度が低いという当初の予想とは異なる結果となったが、関係流動性については、日本・台湾ともに個人レベルでインターネットの信頼度にプラスの影響を与えているという結果が得られた。台湾の方がインターネットの信頼度が低い理由は明確ではないが、インターネット上のコンテンツが日本とは異なり、台湾では信頼度の低いコンテンツが多いという可能性が考えられる。

表 2 インターネットの信頼度を従属変数とした回帰分析

	日本		台湾	
	係数	t 値	係数	t 値
定数項	4.63	5.33 ***	4.72	5.48 ***
関係流動性	0.04	2.41 *	0.06	3.21 **
年齢	0.00	-0.18	-0.02	-3.76 ***

性別	-0.10	-0.53	0.13	0.90
学歴(教育年数)	-0.02	-0.44	-0.06	-1.69

< 引用文献 >

- Ishii Kenichi, A Comparative Study Between Japanese, US, Taiwanese, and Chinese Social Networking Site Users: Self-Disclosure and Network Homogeneity, Tellería, A.S.(Ed.), Between the Public and Private in Mobile Communication (Routledge), 査読なし、 pp.155-174. (2017)
- Ishii Kenichi, Online communication with strong ties and subjective well-being in Japan, Computers in Human Behavior, 査読有、 66, pp129-137、 (2017).
- 石井健一, 「Facebook 利用者の日米台比較 個人情報の開示とネットワークの同質性を中心に」, 『情報通信学会誌』, 査読有、 31(4) :pp.37-48、 (2014).
- 石井健一, 「SNS 利用の比較文化論的研究」調査結果の概要, Institute of Socio-Economic Planning Discussion paper series、 査読なし、 1313号, pp1-9、 (2013).
- Ishii Kenichi & Chyi-In Wu, A comparative study of media cultures among Taiwanese and Japanese youth, Telematics and Informatics, 査読有、 23(2),pp.95-116、 (2006).
- 三上俊治、橋元良明、吉井博明、遠藤薫、石井健一、『インターネットの利用行動に関する実態調査 2004』, 査読なし、独立法人通信研究機構、(2004) .
- 三浦 麻子, 小林 哲郎 オンライン調査モニタの Satisfice に関する実験的研究、社会心理学研究、 31(1) 1-32. (2015)
- Schug, J., Yuki, M., & Maddux, W.W. Relational mobility explains between- and within-culture differences in self-disclosure toward close friends. Psychological Science, 21, 1471-1478. [Journal site] [APS Daily Observations] (2010).
- Thomson, R., Yuki, M., & Ito, N. A socio-ecological approach to national differences in online privacy concern: The role of relational mobility and trust. Computers in Human Behavior, 51, 285-292. (2015).
- Thomson, R., & Ito, N. The effect of relational mobility on SNS user behavior: A study of Japanese dual-users of Mixi and Facebook. The Journal of International Media, Communication and Tourism Studies, 14, 3-22. (2012).
- Thomson,R. THE RELATIONAL MOBILITY SCALE <http://relationalmobility.org/> (2022 閲覧)
- 山田 順子, 鬼頭 美江, & 結城 雅樹.友人・恋愛関係における関係流動性と親密性 : 日加比較による検討 実験社会心理学研究 = The Japanese journal of experimental social psychology, 11/2015, 55 巻, 1 号 (2015).
- Yuki, M., Schug, J., Horikawa, H., Takemura, K., Sato, K., Yokota, K., & Kamaya, K. Development of a scale to measure perceptions of relational mobility in society. CERSS Working Paper 75, Center for Experimental Research in Social Sciences, Hokkaido University. [Download manuscript] (2007).

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 小笠原 盛浩; 木村 忠正; 石井 健一; 遠藤 薫; 三上 俊治; 橋元良明
2. 発表標題 インターネット利用国際比較調査の現状と今後 ~WIP (World Internet Project) 20年の活動への日本チーム (JWIP) の取り組みから~
3. 学会等名 2019年度春季 (第40回) 情報通信学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 木村忠正
2. 発表標題 インターネット利用と社会的分断 JWIP (WIP日本チーム) 調査から
3. 学会等名 2019年度春季 (第40回) 情報通信学会大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井健一
2. 発表標題 インターネット利用の国際比較: World Internet Project日本チーム (JWIP) 調査報告 日本人のネットへの信頼度とプライバシー意識
3. 学会等名 2019年度春季 (第40回) 情報通信学会大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小笠原 盛浩  (Ogasahara Morihiro)  (00511958)	東洋大学・社会学部・教授    (32663)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	木村 忠正  (Kimura Tadamasa)  (00278045)	立教大学・社会学部・教授    (32686)	
研究分担者	橋元 良明  (Hashimoto Yoshiaki)  (50164801)	東京女子大学・現代教養学部・教授    (32652)	
研究分担者	遠藤 薫  (Endo Kaoru)  (70252054)	学習院大学・法学部・教授    (32606)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関